



夏のおススメ本

「この夏、生徒と先生におススメしたい本」ということで50人の先生方に協力いただき、アンケートを行いました。各先生ご自身が読んで感動したもののだけに魅力的な本ばかり。ぜひ夏の課題図書を選定する際に参考にしてください。

構成 / いのうえりえ

生徒におススメ編

「進路や生き方を考えるヒントにしてほしい」「本から得られる豊かな経験を生徒にも!」そんな思いをこめ、先生方が推薦してくれた本を紹介합니다。

生き方のヒント



夜と霧 新版
(ヴィクトール・E・フランクル著 / 池田番代子訳・みすず書房)

静岡 A 高校 J 先生推薦

極限の状態に置かれた人間の心理とは、はたしていかなるものなのか。精神科医である作者が、ナチスドイツのユダヤ人収容所の捕虜となった体験を綴った名作。絶望の中で生きた人々の姿が冷静に描かれています。さまざまな問題を抱えて生きる今の私たちに強い励ましをくれ、何かしらの答えを示唆してくれます。初版以来、世界中で読み継がれている名著です。



風塵抄
(司馬遼太郎・中公文庫)

東京 B 高校 K 先生推薦

短い二話の中に、人々の生き方への温かな眼差しや、社会のあり様への鋭い視点が光る随筆集。日常の何気ない風景の中に、私たちが考えなければならぬ事象が多々あることに気づいてほしいなと思ひます。

目次を見ながら、気になった話から手軽に読み進めていける点でもおススメです。

「帰ってきたソクラテス」

福島県立福島西高校 荒康義先生推薦

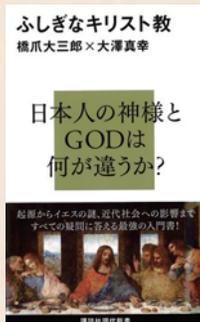
ソクラテスが現代に蘇り、政治家や知識人たちと討論をするというおもしろい観点から現代の問題を考えさせてくれる本です。著者は「14歳からの哲学」で有名。「自分自身でものを考える」という「見聞」で難しいことを興味深いものにしてくれます。哲学のちょうどした入門書になる本です。

「高校時代にしておく50のソート」

新潟県立長岡工業高校 磯部勇先生推薦

就活のバイブル「面接の達人」の著者が、高校時代を充実させるコツを、自身の経験、エピソードを交えてアドバイスしています。お金がなくても学校生活を楽しむ方法、友達づくりのヒントなどが満載。「親は他人だと思おうように」など、著者独自の視点による軽快なアドバイスがすがすがしく心に響きます。

社会と人間を知る



ふしぎなキリスト教
(橋爪大三郎 / 大澤真幸・講談社現代新書)

埼玉県立浦和高校 関根郁夫先生推薦

私たちはヒト・モノ・カネが国境を越えるグローバル時代に生きています。この時代を知るためには、近代の根柢となる西洋、西洋のバックボーンであるキリ

スト教を知る必要があります。日本はキリスト教をほとんど理解せずに近代化を進めてきました。キリスト教を知ることで今の時代の本質が見えます。次の時代への変容の方向性がつかめます。新たな価値観を創造する役目を担った若者たちに本質を見る目を養ってられます。



鬼の研究
(馬場あき子・ちくま文庫)

東京 C 高校 M 先生推薦

学生時代に読みました。日本人の心を学べる古典的名著です。少し難解ではありますが、鬼と化さざるを得ない悲しみの深さ、哀れな闇の行方への言及は、やるせないほど美しい。現代の高校生にも響くものがあるのではないかと思います。

「森は海の恋人」

(富山重篤・文春文庫)

神奈川県立茅ヶ崎西浜高校 神戸秀巳先生推薦

「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はありえない」と言ったのは宮沢賢治。この本では、視野を現在から未来にまで広げ、自分の住んでいる町から連環する森や海へも想いを巡らすことができます。環境の大切さとともに、安全で健康な自然を取り戻す必要性について、一緒に考えてもらいたいと思います。

「ムナロ」とのつきあい方 —13歳からの大学授業 桐光学園特別授業V—

(桐光学園中学校高等学校編 水曜社)

神奈川県立慶應義塾湘南藤沢中等部 成田宏昭先生推薦

神奈川県の私立桐光学園における特別授業で、大学の教員を招いて研究の最前線について講演したものの講義録です。本書はシリーズ5冊目。研究の

おもしろさ、奥深さの一端に触れることができる良い機会です。自分の進路を考える糸口にもなりそうです。シリーズIからIVも含めてどうぞ！

ココロに効く小説



正直な泥棒
(百年文庫「心」に所収)
(ドストエフスキー著／小沼文彦訳・ポプラ社)

富山県立高岡西高校 浜木清紀先生推薦
ドストエフスキーを読むと「知的な人」と思われるのもあっておススメです(笑)。私は「罪と罰」「白痴」「カラマーゾフの兄弟」など、いくつか読みましたが、この短編小説が一番心打たれました。人間の心の弱さ、せつなさを感じさせられます。

「まんろ」

(夏目漱石・新潮文庫ほか)

北海道市立釧路北陽高校 田宮司先生推薦

教科書で学びますが、ぜひ全体を通して熟読してほしい。男女の三角関係に焦点が当てられがちですが、明治の文化人の(漱石自身の投影)新しい時代に対する期待や孤独感が繊細に描かれており、それは現代にも通ずるものだと感じられます。高校生が誰しも感じる青春時代の「淋しさ」に寄り添ってくれる作品です。

「八日目の蟬」

(角田光代・中公文庫)

広島Y高校 N先生推薦

映画化もされ、話題になった作品です。不倫相手の娘を奪い、逃避行を続ける主人公と、その後、別れになった娘の後日談との2部構成になっています。

す。倫理的には許されない内容ですが、そういった状況下だからこそその真実があります。知らず知らずのうちに、この許されざる母子関係を応援している自分がいて、何が真実なのか、倫理的な課題を突きつけられます。



阪急電車
(有川浩・幻冬舎文庫)

愛知県立碧南高校 今村浩先生推薦

注意しなければ、つい見過ごしてしまいがちなローカル電車の中の些細なできごとが、オムニバス形式のドラマに。普段の何気ないできごとを小説にしてみよう有川ワールドにはいつもながら感心してしまいます。思わず宝塚へ行き、阪急今津線に無性に乗りてみたくなる小説です。

頭を鍛える



最新脳科学が教える高校生の勉強法
(池谷裕二・ナガセ)

静岡県立伊東高校 稲葉渉先生推薦

脳科学の知見をもとに人間の記憶について書かれています。脳や記憶のしくみから説かれる効果的な学習方法はとても納得がいくものです。著者が最も伝えたい部分は、勉強で大切なのは努力の継続だということ。とくに、勉強の成果が現われるのは、最短でも3カ月以上経ったあとだという部分は、勉強するすべての人に知ってほしいことです。



多読術
(松岡正剛・ちくまプリマー新書)

神奈川県立横須賀総合高校 田熊豊先生推薦

著者は真の「本の目利き」であり、主宰する書評サイト「千夜千冊」は1600夜以上まですでに突入。本来は「千夜千冊」の本を読破してほしいのですが、まずはこの冊から。著者が日頃の読書法、多読のコツを対話形式でやさしく伝授してくれます。これを読んで知的好奇心を駆り立て、常識を疑う心も養ってもらえたらと思います。



だまされない〈議論力〉
(吉岡友治・講談社現代新書)

東京都立戸山高校 岡本眞郎先生推薦

そもそも「議論」とはどういうものなのかを、大学入試問題なども交えながら論理的に、鮮やかに解説をしてくれまます。この本を読むと、討論の解釈や新聞のコラム、社説などの読み方がガラッと変わります。

「世界」や「やさしい問題解決の授業」

(渡辺健介・ダイヤモンド社)

北海道D高校 O先生推薦

世界的な経営コンサルティング会社の問題解決能力のトレーニング法がわかりやすく解説されています。私自身、教師という仕事をやるようになってから、物事の本質の見極め方、答えのない答えの出方、そしてそれに同意を得るには何をすればいいのかといったスキルがいかに重要かを痛感しています。だからこそ、今のうちに高校生にも読んでおいていただき、ロジカルなモノのとらえかたを身につけてほしいなと思います。

勉強が楽しくなる



世界を変えた手紙
(キース・デブリン著／原啓介訳・岩波書店)

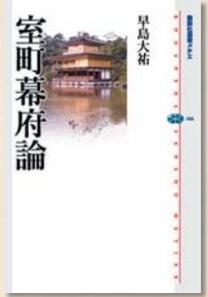
岐阜県立岐阜高校 榑部祐成先生推薦

まだ未来を数値で置き換えて考えようという概念がなかった17世紀に、確率の基盤を築き上げた2人の数学者、パスカルとフェルマー。彼らの往復書簡を通して確率の概念を説明してくれる、非常におもしろい本です。

夏の読書で大人への旅を楽しもう

マナーは誰かと一緒に気持ち良く過ごすために必要なこと。「ティファニーのテーブルマナー」(ウォルター・ホーヴィンク著／鹿島出版会)は、ナイフやフォークの使い方だけでなく、「自分の意見よりも、人の話に興味深げに耳を傾けるのが、会話上手の秘訣です」とか、お作法を破るにはどうすればいいかなど、すてきな大人になるために必要なマナーが小粋に学べる1冊です。「せっかくなので夏だから長編に挑みたい」という高校生には現在第5部まで13冊が刊行されている「エイラー地上の旅人」(ジョン・アウル著／集英社)シリーズを。ネアンデルタール人の間で育つロマニオン人の少女が、生きる術を身につけ、恋をし、旅をする物語です。時間も空間も軽々と飛び越える旅が待っています。

〔日本史〕



室町幕府論 (早島大祐・講談社選書メチエ)

岡山・県立勝山高校 三浦隆志先生推薦

この本は、南北朝から4代将軍足利義持の時代までの政治や社会、文化などの状況を、具体的に貴族の日記などでみごとに描き出しています。室町幕府とはどのような存在であったか、それを取り巻く貴族や僧侶らさまざまな人々の有様がわかります。14世紀後半から15世紀前半の日本がどうであったかを知るうえでも役立ちます。

〔理科〕

「宇宙でくらすう」

リバー・ミノー・22 (リバー出版)

長野E高校 R先生推薦

現役の理系大学生・大学院生が「もつと理科に興味をもつてほしい」という思いで、宇宙に関する最先端の研究内容や、宇宙へ行った生き物たちの話など、さまざまな話題を提供しています。読むと「もしかしらば、宇宙で暮らせるかも!」と、宇宙を身近に感じられます。

〔生物〕

「冬眠の謎を解く」

(近藤宣昭・岩波新書)

北海道・道立札幌北高校 中道洋友先生推薦

決してかわいい動物たちの物語ではありません。業理学者の著者が冬眠中のリスの心臓が、なぜ低温に耐えられるかを調べるため、解剖を続ける話です。今まで知られていなかった冬眠の生理学的メカニズムが解明されていく過程が、著者の体験をふまえて、実に生き生きと描かれています。生物を履修していない人でも理系ならばぜひ読んでほしい。研究の醍醐味を教えてください。

番外 マンガ編

マンガにも数多くの名作があります。先生方が感動したマンガ、生徒にもおススメしたいマンガを教えてください。



栄光なき天才たち (伊藤智義・森田信吾・集英社)

福岡・市立北九州高校 南正起先生推薦

歴史に埋もれた天才たちの生涯をマンガでわかりやすく紹介しています。一般的な伝記ものとは異なりますが、歴史に興味ある人もない人も夢中になってすらすらと読めるはず。彼らの姿が、ひたむきに自分の夢や目標を追いかけられること、すばらしさを教えてください。



バクマン。 (大場つぐみ・小畑健・集英社)

広島F高校 S先生推薦

週刊少年ジャンプを舞台にした人気漫画家へのサクセス・ストーリー。内幕話などおもしろい、なかなか進まない主人公周辺の物語も現実的でおもしろい。普段読んでいないマンガを描く仕事そのものをマンガの題材にしているところがユニーク。途中、若干非現実的な展開もあったりしますが、マンガが好きな人にはたまらないと思います。



ポールの一族 (萩尾望都・小学館文庫)

東京私立広尾学園高校 金子暁先生推薦

高校時代、寝込んだ時期に読むものがなく、姉の持っていたマンガを手当たり次第に読んでいたのですが、その中で出会った傑作です。「少女マンガか!」というこちらの思い込みがみごとにひっくり返され、一気にその世界に引き込まれていました。ひとコマひとコマの描写とストーリー展開がすばらしい作品です。

「天才 柳沢教授の生活」

(山下和美・講談社漫画文庫)

北海道・道立札幌北高校 中道洋友先生推薦

生徒から「なぜ勉強するのか」とよく聞かれます。「学び」は、何かに役に立つからとか、ただ将来への投資などといったことに留まることではありません。この作品を読むと学ぶことがなぜ大切なのか、なぜ楽しいのかがよくわかります。

「逆境ナイン」

(島本和彦・小学館)

北海道・市立釧路北陽高校 田宮司先生推薦

無茶苦茶なマンガです。廃部の危機など次々と逆境に見舞われるチームですが、その逆境を糧にして次々と主人公はトラブルを乗り越えていきます。その姿勢に、とてつもないパワーを感じます。「これが逆境だろ!」という全力学園野球部キヤプテン不屈闘志の心の叫びは、辛いことや苦しいことがあったとき、支えになります。

「北斗の拳」

(原哲夫・武論尊・集英社文庫)

広島G高校 T先生推薦

「おまえはもう死んでいる……」。一子相伝とされる北斗神拳の伝承者ケンシロウが、核戦争後の荒廃した世界を舞台に大暴れするスーパーアクション巨編。殺伐とした描写もありますが、ストーリーのクオリティも高く、何より愛・哀しみ・怒り・希望などを深く感じさせてくれる名作です。

「天の果て 地の限り」

(天和紀・講談社漫画文庫)

神奈川県立公文国際学園高等部 伊東光弘先生推薦

壬申の乱のころを扱っています。中大兄皇子、大海人皇子、そして額田王を中心とする政治・外交が描かれています。作者の別作品「はいからさんが通る」に比べると知名度はやや低いですが、読み応えは十分にありま。

「坊ちゃんの時代」

(関川夏央・谷口ジロー・双葉文庫)

長野H高校 U先生推薦

明治という時代を生きた夏目漱石をはじめとするさまざまな文化人たちの、繊細に生き生きと描かれています。読み進めると、フィクションではあるものの夏目漱石の「坊ちゃん」の背景も見えてきます。

「宗像教授伝奇考」

(星野之宣・潮漫画文庫)

神奈川県立横須賀総合高校 田熊豊先生推薦

日本各地に伝わる伝説や歴史の謎を調査し、従来の歴史学の常識から外れた奇想あふれる仮説を披露するスタイルで話が進んでいきます。日本文化への並々ならぬ知識と仮説のおもしろさは類を見ないと思います。知的好奇心を刺激すること間違いなしの作品です。

